



俳句ゆめクラブ会報

2021年7月27日

第 134 号

大山鳴動してなんとやら・・、台風8号が関東への直撃予想で県活句会を通信句会に急遽変更したのだが、いざ当日になると朝の内の雨は直ぐにやんでしまつて午後には晴れて拍子抜け。

まあそれでも高齢者ということで無理は禁物、用心するに越したことはないとあらためて思った次第。

梅田先生には又もご面倒をお掛けしてしまつたが続けることがなにより、会員のご協力にも感謝。

そうした訳で今回は今年2月以来の通信句会、兼題は「白南風」であった。

梅田先生の句

白南風やぐいぐいと人曳ける犬
人波に呑み込まれゆく日傘かな
黎明の空のしづかに蓮開く

梅田先生選

《特選》

玉虫の妖しき光追ひ求め

(妖しきとするとよくなりました)

夏草の思ふがままの屋敷跡

(最近はこの場所が多くなりました)

出番なき神輿を磨く男衆

(コロナで神輿も担げなくなつたのですね)

長澤輝子

浅見法子

八千代幸男

初蟬や耳鳴りのごと響きをり

(小生も初蟬を聞いた時同じように感じました)

鳴神のたたら踏む音雨近し

(近づいてくる雷が聞こえそうです)

容赦なく地を叩きつけ大雷雨

(大雷雨、全くこの通りです)

白南風や庭に雀の声のして

(季語の効いている句)

森深く光ひとすじ苦の花

(とても奥行きのある句)

碧天に唯我独尊雲の峰

(唯我独尊がとてもよかったです)

白南風やすべる帆船二、三隻

(季語の白南風がとても効いています)

サイクリング白南風に乗り軽やかに

(気持ちよさそうですね)

瀬戸川公子

岩松忠子

吉澤愛子

宮島昭夫

大井昭子

小林健一郎

大井昭子

吉澤愛子

夢の中語り弾ける生ビール

(夢の中ではない方が良かったですね)

昔日やつまぐれで染めし爪の色

(昔は鳳仙花で染めたこともあったのですね)

白南風やおろし立てなるスニーカー

(スニーカー、実際に履いたほうがいいですね)

浮草に身じろぎもせず雨蛙

(雨蛙が動かない様子ですね)

鈴木幸恵

岩松忠子

岡田時雄

吉澤愛子

夕暮れの落ちてても白き沙羅の花

(清く咲きが要りません)

白南風や五輪の空の日章旗

(五輪の空としたいところ)

滴りて刻きざむ音確かなる

(中空にが要らないですね。滝ではないので)

白南風の荒川の草ゆすりけり

(荒川岸の岸が要りません)

白南風に浜辺の少女踊り出す

(踊り出すにしたい)

さらさらと木綿のシャツや半夏生

(纏ふはシャツにしたほうが良い)

近づける颱風の眼の怖きかな

(怖さは怖きとしたい)

白南風や水に映りて雲流る

(泉水は水にしたい)

梅雨明けの書斎に朝日差し込めり

(川面でなく書斎とした方がよい)

朝空の焼けるがごとき極暑かな

(炎天下でなく極暑の方が良くなります)

炎天下阿吽の呼吸のバッテリー

(三段切れなので呼吸のとしました)

白南風やシーツの白さ目に痛し

(タオルよりもシーツの方がいいと思います)

兄妹で金メダルなる夏五輪

(はつきりと金メダルとしたい)

白南風や過疎の島へと渡る船

(半農半漁は要らないですね)

コロナ禍に一人訪れ鮎の宿

宮島昭夫

小林健一郎

大井昭子

有村弘

鈴木幸恵

小林健一郎

岡田時雄

瀬戸川公子

八千代幸男

有村弘

長澤輝子

岩松忠子

宮島昭夫

浅見法子

鈴木幸恵

(続く)

(こっそりはないほうがいいですね)

上野投手羽搏くごとく雲の峰 有村 弘

(ソフトボールの上野投手が活躍しました)

日本地図真つ赤に塗られたる大暑 浅見法子

(この地図を見ていただけで暑くなります)

炎天下山肌あらは武甲山 長澤輝子

(季語が炎天下の方が合います)

ブルーインパルス五輪を描く夏の空 岡田時雄

(開会式の日、ブルーインパルスが飛びました)

七夕の夜空に暗き雨の音 瀬戸川公子

(落つが要りません)

白南風のたつぷり窓を開け放つ 八千代幸男

(白南風のふくまをたつぷりとしたいところ)

互 選

白南風やぐいぐいと人曳ける犬 (5票) 梅田ひろし

夏草の思うがままの屋敷跡 (3票) 浅見法子

出番なき神輿を磨く男衆 (6票) 八千代幸男

鳴神のたたら踏む音雨近し (3票) 岩松忠子

容赦なく地を叩きつく大雷雨 (3票) 吉澤愛子

碧天に唯我独尊雲の峰 (3票) 小林健一郎

人波に呑み込まれゆく日傘かな (4票) 梅田ひろし

日本地図朱に塗られたる大暑かな (4票) 浅見法子

黎明の空のしづかに蓮開く (6票) 梅田ひろし

〔 決定事項・連絡事項 〕

・次回句会 8月24日(火)

県に緊急事態宣言が出て、感染者も急増の為に通信

句会とします(8月21日から24日までに投句して下さい)(小林苑) 20日に案内メール

兼題「新涼」

他に自由題で二句、合計三句提出のこと。

(小林健一郎記)

